

英國  
初學  
教育  
條例

二

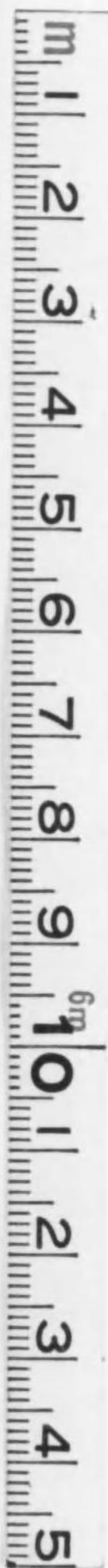
特279-308



1200501132329

279

08



始





特279  
308



第八章 學校供給所法 公立學校供給不足

ニ就テ決セル統學院ノ議

各學區ニ係ル公立學校供給総額ヲ決定スルノ  
主要 若シ各學區ニ在テ之ヲ要スル所アリト  
セハ則チ統學院ノ此條例ヲ布告スルヤ直チニ  
此條例中ニ記載セルカ如キノ申狀ヲ為セヨト  
命スヘキナリ

第六十七章及ヒ七十一章ハ地方有司即チ此  
輩以テ作レル申狀ヲ得ルノ法其法ヲ豫備ス  
スルニ係ル費金所要件ヲ濟成スルニ因テ為



せし地方有司ノ失計ヲ處置スルノ法及ヒ申  
 状ヲ欲ケル所アリ乃チ検査ヲ行ハントシ監  
 察官ヲ命スル等ノ諸件ニ係ル諸條款ヲ包載  
 セリ又統學院ヨリ布告セル申状ノ體裁中  
 以テ要トスルノ報告ニ至テハ宜ク之ヲ第一  
 十葉ニ就テ視ルヘシ  
 而シテ此等ノ報告ヲ收受シ倘シ果シテ緊要ト  
 爲スヘキ所アルヲ見ハ宜ク先ツ之ヲ考究シ而  
 シテ後又斯ノ如キノ學區ニ在テ何等何様ノ公  
 立學校供給ヲ力要トスヘキヲ熟慮スヘシ若シ

今熟慮スル所ノ如クナルニ至ラハ則チ統學院  
 ハ其公立初學々校ト否ラサルトヲ問ハス齊ク  
 其各學校ニ就テ熟慮シ又眞ニ學區中ニ列セシ  
 ムヘキモノナルカ將タ否ラケルカヲ視察スヘ  
 シ統學院ノ意見ニ依テ之ヲ見ルニ其學區中ノ  
 児童ニ向テ實効ヲ爲スノ初學教習ヲ施シ或ハ  
 之ヲ充足スルニ至ラハ則チ与ヘ又其児童ニ適  
 應シ若クハ之ヲ充足スルニ至ラハ則チ適應ス  
 へキカ等ノ件ニ就テ頃ク熟慮スル所アレ  
 學區中公立學校ノ供給ヲ充足ニスルノ究問



ニ至ラハ之ヲ第五章三百三十二条ニ就テ視  
ルヘシ  
一議負<sup>ガ</sup>ルノ<sup>ン</sup>ハルコ<sup>ール</sup>ト<sup>氏</sup>ナル者下條  
ノ約款ヲ追加シ以テ此條款ヲ改正セニテラ  
論セリ即チ其言ニ曰ク其何レノ學校ヲ問ハ  
ス曾テ公立初学々校ノ為メニ設立セル諸款  
條中ノ規矩ニ從ハサレモノアルモ蓋シ統学  
院ヤハ之ヲ以テ其視察中ニ列セシメス(第七  
章ヲ視ルヘシ)而シテ各學區ニ在テハ乃チ完  
全ニシテ且實効アルノ學校若クハ他人諸学

校ヲ設ルニ至ラシメ以テ公立初学々校ニ保  
リ此條例中ニ挙ケルノ規條ニ從ヒ處スルア  
ラシムヘント又<sup>フ</sup>アルス<sup>レ</sup>ル<sup>氏</sup>ノ説ニ曰ク若シ  
夫レ父母タル者類ル宗教ヲ固執シ而シテ其  
若干兒童ヲ教育スルカ為メニ設立セルニ係  
レルノ學校ノ如キハ之ニ委負タル者強クテ  
他ノ供給ヲシテ猶斯ノ如クナラシメ<sup>ト</sup>欲  
シ之ヲ地方ニ要スル勿<sup>レ</sup>ト而シテ此改正ノ  
如キハ衆人ノ舉テ拒ム所ト為レリ  
公立初學學校ト稱スルノ義ニ至リテハ明ニ



之ヲ第七章中ニ説ケリ  
 学校管理者若クハ教師タル者倘該校ノ事ニ  
 関シ統学院ヨリ命セラレルノ特別件ノ報告  
 ヲ完成セシムラ拒ミ若クハ之ヲ怠リ又其学  
 館ヲ検査シ某学生ノ業ヲ試査シ其学校書籍  
 若クハ簿冊ヲ檢閲シ乃チ之ニ就テ抄寫シ抜  
 萃スル等ノ事ヲ聽ルズヲ拒ム者アラハ則チ  
 之ヲ着テ以テ其学区中實効アルノ初学教育  
 ヲ為スノ学校部中ニ在ルモノト做スヘカラ  
 ヲテントス(第七章ヲ觀ルヘシ)

第九章公立学校所要供給ノ件ニ就テ統学  
 院ヨリ發スルノ報告

統学院ヤハ其々学区ニ對シ必ス其公立学校用  
 ノ供給ニ就テ該院所決ノ報告ヲ發示スヘシ  
 統学院報告ヲ公示スルノ法ノ如キハ第八十  
 章ニ明ナリ就テ見ルヘシ  
 且ツ斯ノ如キ学区ニ係ルノ件ニ至テハ且ク之  
 カ解明ヲ布告スヘシ而シテ倘諸学校ノ多寡大  
 小及ヒ種類等ヲ告知スルヲ以テ斯ノ如キノ学  
 區ニ向テ裨益アル所ト為サハ則チ統学院ニ在



テハ宜ク此等ノ件ヲ以テ公告スル猶上ニ記載  
シ来レル所ノ如クシ且ツ公立学校供給総額及  
ヒ其種類ノ學區ニ對シ要スル所ノ如ク統學院  
ニ在テ視察スル事并ニ他ノ某々各件ノ統學院  
ニ在テ便宜ト看做スル事ヲ告知スヘシ

第一款 地方ノ納稅者其數或ハ十個ニ至リ若  
クハ十個以下ニ在ルモ其地方ノ納稅  
全價直三分ノ一以上ヲ以テ貧民扶助  
ノ為メニ課スル所ノ者

抑地方ノ納稅全價直ナルモノハ其現ニ公行

セラレルノ價直表 納稅價直表アリ其中ニ登載

スル処ナリト為スヘク而シテ若シ其稅簿ニ  
載録スル所アルナケレハ則チ(第七十九章ヲ  
觀ルヘシ)

第二款 學區中某々初學々校ニ管理者タレル  
ノ輩

其斯ノ如キノ設定アリ依テ痛悲スル所アレハ  
則チ其輩ハ此報告ノ公發後一個月ヲ過キサル  
ノ日ヲ以テ之ヲ統學院ニ申狀シ請求 檢査スルヲ請  
義スルヲ得ヘク又統學院ハ此條例ニ依テ設定



セルノ方法ヲ用井公ニ検査ヲ為サントテ令ス  
 へキナリ  
 公検査ニ係ルノ諸款條ハ第七十三章中ニ包  
 載スル所アリ 統学院ノ決定スル所ニ依リ  
 某學區ノ為メニ裨益スル所アルノ公立学校  
 供給ヲ實施スルヲ痛悲スルノ輩ニ至テハ猶  
 他ノ供給ヲ要スルノ決定ヲ以テ痛悲スル  
 ノ輩ト目ク公検査ヲ用井ント請求スルノ權  
 利ヲ有スル者トス 統学院若シ自ラ以テ正  
 當ト為サハ則チ検査費用ノ如キハ其検査セ

ンテテ請求シ依テ許可ヲ蒙レルノ輩之ヲ負  
 荷スヘキラ命スルノ權ヲ有シ又之ヲ請求ス  
 ルノ人ニシテ若シ其費用ヲ出スヲ保證スル  
 ヲ避ルアレハ則チ検査スルヲ拒辞スルヲ得  
 へキナリ  
 期月ニ一個月ヲ出ラヌ統学院既ニ盡ルノ後若干  
 日ニシテ更ニ公検査ヲ行ハント令スルナキノ  
 時若クハ斯ノ如キノ検査ヲ行ヒ了リ乃チ発ヒ  
 ル告知ヲ受納セルノ後ト虽氏其情状ヲ隨ヒ統  
 学院苟モ以テ學區ニ向テ公立学校ノ供給総額



未夕充足ナラザル所アリトセハ則チ更ニ結末ノ報告ヲ公示スルヲ得ヘシ且ツ此報告書中ニ載録スルニ猶其最初登示セルノ報告書中ニ載録セル所ト同一ノ各件ヲ以テ之保セラ其設為スルヲ適當ト為ス所ノモノ即チ更ニ其最初登録スル所ト別ナルモノアラハ又之ヲ登載シ且ツ此ニ所要ト為シ記載セルノ公立学校供給ノ如キハ宜ク之ヲ設備スヘキヲ命スヘキナリ

結末ノ報告即チ次章ニ掲ル所ノ者ニ至ラ省出セラルヘキモノ、如キハ六個月ヲ越エサ

ルニ及テ之ヲ出スラ定期限ト為スヘク即チ此期限内ニ於テハ宜ク供給ヲ増加設備スヘキナリ

第十章學務局ヲ造成シ及ヒ諸学校ヲ設立スルカ為メニスルノ諭令

結末ノ報告ヲ以テ限定スヘキノ期即チ六個月ノ期未夕越過セサルニ及テ苟モ統學院ニ在テ決定シ以テ結末ノ報告ニ依テ命令セラレ將ニ設備セラレントスルノ公立学校供給ノ如キハ之ヲ設備スル或ハ其要スル所ノ如クスルナカ



ラントニ或ハ通常公書中得テ之ヲ設備スヘキ  
ノ路アラストセハ則テ統學院ニ在テハ其學區  
ニ向テ此條例中ニ奉ルカ如キノ學務局ヲ造成  
スヘシ而シテ其造成スル期ノ如クスルノ學務  
局ニ送遣スルニ諭令ヲ以テシ之ニ要スルニ其  
諭令中ニ包載スルノ公立學校供給ヲ設備スル  
ノ處法ヲ以テ直テニ執行スヘキヲ以テシ又學  
務局ハ之ニ依テ其要命セラレルノ供給ヲ設備  
スヘシ

自由學校ヲ設立スルカ爲メニ時日ヲ与フル

ノ意見ヲ記セルノ條例草案ニ據レハ則テ統  
學院ヤハ其結未報告ヲ公衆セルノ後二十個  
月ノ期ヲ經過スルニ非サレハ學務局ヲ造設  
スヘキノ權ヲ委セラレノナシトス而モ又此  
ニ注意スヘキノ件アリ即チ今ヤ此期限(結未  
報告ニ依テ確定セラレヘキ期限)ヲ以テ當ニ  
六個月ヲ出ツヘカラケルモノトセリ而モ統  
學院ハ其既ニ確然設備セラレルノ學校ニ於  
ケルノミナラス尚且ツ通常公書ヲ以テ設備  
セラレルヘキノ路ニ於ケルノ學校ト雖モ亦



視察スル所アルヘキナリ

統学院ヨリ發セルノ諭令ヲ收受シ學務局ヲ  
設造スルカ為メニ事務ヲ執行スルニ就テ權  
カヲ委セラル、ノ市尹及ヒ他ノ有司者ノ職  
掌ノ如キハ之ヲ第三十一章ニ就テ觀ルヘシ

第十一章學務局ノ失計ヲ處置スルノ法

學務局ニシテ若シ上文所説ノ方法(前章ヲ觀ル  
ヘシ)上斯ノ如キノ諭令ヲ送遣スノ後二十個月  
以内ニ其諭令ヲ濟成スル能ハサレハ則チ之ヲ  
過失ヲ為セルモノト看做スヘク又若シ統学院

ニ在テ斯ノ如キノ學務局ヲ以テ是レ過失ヲ為  
セルモノナリト為セハ則チ其過失ナルノ學務  
局ニ関セル此法令ニ依テ指令セラレルノ方法  
ヲ用井以テ之ヲ處置スヘキモノナリ

學務局ノ過失ヲ為セルノ時ニ方リ統学院之  
ヲ處置スルノ法ニ至テハ之ヲ第六十三章及  
ヒ第六十六章ヲ觀ルヘシ

第十二章請求ニ依テ検査スルナキ學務局  
ノ造成

次條ノ狀況ニ於テ(之ヲ細言セハ)



第一款 若シ其学区中 学務局ノ設ケアレハ 則チ其学務局ヲ 扱ハント 欲スルノ 輩ニ 依テ 某学区ニ 関シ 或ハ 縣地ニ 係リ 縣會ニ 依テ 統学院ニ 請求セルノ 状況是 十リ

第二款 統学院 断定シ 某学区中 某初学々 校管 理者 輩斯ノ 如キノ 学校ヲ 維持スル能 ハズ 若クハ 之ヲ 維持スルヲ 欲セザル 者ナリト 爲シ 而シテ 若シ 其学校ヲ 廢 棄セハ 斯ノ 如キ 学区ノ 爲メニ スルノ

公立学校ノ 供給 総額 竟ニ 充足ナラサ ル所 アラント 爲スノ 状況 是ナリ

統学院 若シ 之ヲ 以テ 適當ト 爲サハ 則チ 学務局 ヲ 造成スルノ 以前ニ 方リ 此條例ニ 依テ 要セラ レルノ 検査ヲ 爲シ 若クハ 報告ヲ 公示スルヲ 用 井ス 而モ 公検査 若クハ 他ノ 検査ヲ 行ヒ 統学院 ノ 認メテ 以テ 足レリト 爲スノ 報告ヲ 發セルノ 後ニ 至テ ハ 斯ノ 如キノ 学区ノ 爲メニ 学務局ヲ 造成セシムルヲ 得又 猶 結末ノ 報告ヲ 爲セルカ 如ク 衆件ニ 係リ 同一 方法ヲ 以テ 諭令ヲ 縣ノ 如



キノ学務局ニ送遣スルヲ得ヘキナリ  
以テ此章ノ正鵠ト為セル願請ノ如キハ要スル  
ニ必ス其一週日以テ公發セルノ報告ニ從ヒ統  
学院ニ在リ決スルノ議若クハ公會ニ依テ決セ  
ルノ議ニ據リ之ヲ為シ得ヘキナリ斯ノ如キ決  
議ノ發スルノ件ニ至テハ宜ク必ス此條例ニ附  
スルノ第二附加條目第二部中ニ在ルノ條款ニ  
注意スヘシ

學校供給ヲ設備スル方法ヲ用ユルノ地方ニ  
在テハ宜ク学務局ヲ造成セシムラ要望スヘ

キカ如ク然レリ是レ現ニ公行セル規條下ニ  
在ルノ自由學校ヲシテ税ヲ以テ扶助セラル  
、ノ學校ト為ラシメニカ為メニスル所ナリ  
(第三十二章ヲ觀ルヘシ或ハ児童ヲシテ強テ  
學校ニ伺候セシメシカ為メニ附例ヲ設為ス  
ルヲ得ヘキカ為メニシ(第七十四章ヲ觀ルヘ  
シ)又或ハ学謝ヲ出シ取ハサルノ貧窮父母ニ  
シテ児童アルノ状況ニ際セハ則チ學校謝金  
ヲ許与セシメ得ヘキカ為メニス(第十七章及  
ヒ第二十五章ヲ觀ルヘシ)此章ノ如キハ學校



供給ヲ設ルノ方法ヲ採用セザルヲ許可セラ  
レルノ情況ニ際スヘキナリ而シテ其欲之ス  
ル所ノ者ハ之ヲ學務局ヨリ給備セラレニ  
テ要請スヘキカ如キモノトス  
若シ一縣ノ會議員ヲ以テ願請ヲ爲セハ則チ  
其決定ノ如キハ例ニ徵召セルノ會議方法ヲ  
以テ徵召セルノ一會議ニ於テ決定スル所ニ  
ニ出席シ此宛問ヲ癸スルノ議員中其過半ニ  
依テ決定センヲ要トス  
統學院ヨリ布告セル規條ニ從ヒ設立セラレ

ルノ學務局所屬多數學區ノ陳述スル所ニ至  
テハ之ヲ第三百三十五條ニ觀ルヘシ  
首府若クハ縣管ニ包括セラレサルノ濟貧稅  
地或ハ濟貧稅地ノ一部ト雖亦然リ宜ク第  
七十七章ヲ觀ルヘシヲ以テ成レルノ學區ニ  
至テハ其事ヲ決スルヤ一ニ納稅者ノ會議々  
定スル所ニ據ルヘキ者トシ又務メテ學務局  
議員ヲ擇選スルノ方法ト同一方法ヲ以テス  
ヘキ者トス而シテ統學院ヨリスル某々命令  
中ニ包括セラレヘキノ要用改正件ヲ併加ス



納稅者ト稱スル所以ノ解明ニ至テハ第二十九  
 九章ニ就テ觀ルヘシ  
 斯ノ如キノ狀況ニ至テ統學院此ニ學務局所  
 求ノ決定申述ニ就テ一般ノ規條ヲ告示セリ  
 附録第ニ百四葉ヲ觀ルヘシ  
 抑此規條ニ據レハ則チ聯合濟貧稅地ノ書吏  
 若クハ現ニ斯ノ如キ書吏ノ職掌ヲ執行スル  
 ノ人ヲ以テ其濟貧稅地ノ徵衆官タルヘキ者  
 ナリト為セリ即チ此輩ハ唯此章中ニ載スル  
 決定ヲ為ス以テ主眼ト為シ乃チ衆ヲ呼集會

議セシムル人ニシテ是レ納稅者五十個人若  
 クハ此條例中ニ論セルノ納稅者三中ノ一ヲ  
 シテ結印セシムル書共中ノ諭令ニ就テスル  
 所ナリ 諭令ノ體裁ノ如キハ之ヲ第三百五  
 葉ニ就テ觀ルヘシ 此規條ハ徵衆有司ノ徵  
 集スル所ト為リ會議ヲ行フノ報告及ヒ會議  
 上慶置方法決議ニ以テ納稅者ノ投票ヲ定ル  
 等ニ関スルノ規條ヲ包載ス  
 統學院ニ在テハ此章中ニ挙ケル學務局ヲ設  
 立セントシ納稅者ノ願請ニ依テ之ヲ行ハサ



ルヘキナリ其然ル所以ノモノハ即チ相近接  
 大ルノ一濟貧稅地若クハ數多ノ濟貧稅地ヲ  
 合同シ恰モ聯合學區ヲ造成スルカ如クスル  
 果シテ之ヲ適應スルト否斷升此ヲ先決定ス  
 ルノ正鵠ニ向テ先ツ其學區ノ諸事情ヲ熟察  
 スルニ非サレハ不可ナリトス  
 既ニ議定スル所若シ還タ拒辭セラルレハ則  
 チ其議ノ如キハ茲ニ拒斥セラル、ノ後又十  
 有二月ヲ經過スルニ非サレハ再ヒ發言スル  
 能ハサル者ナリトス

統學院ハ都府公會若クハ納稅者ノ某々願請  
 ナキモ自ラ斷決シ某初學々校管理者共學校  
 ヲ維持スル能ハサルアリト為サハ則チ學務  
 局ヲ造成スルヲ得ヘク還タ若シ之ヲ廢絶セ  
 ハ則チ地方ノ為メニ公立學校供給ノ總額ヲ  
 シテ竟ニ充足セサル所アラシムルニ至ラフ  
 トス夫レ學校管理者共其學校ヲ維持センニ  
 其不能若クハ之ヲ維持永存センム人ヲ欲セ  
 サルニ依リ乃チ之ヲ統學院ニ建言シ併セラ  
 談院ニ関セル推カヲ依用スルノ意先ヲ以テ



スル者下リ其例詳カラサルナリ而シテ尚統  
 学院ハ更ニ管理者ノ建言ニ依リ学務局ヲ造  
 成セシカ為メニスルノ命ヲ公告スルヲ為ス  
 ト亟ニ若シ夫レ地方ノ学校供給ニ係リ検査  
 スル所アリ其々学校ヲ廢棄スルアレハ則チ  
 地方公立学校ノ供給ヲ採用スヘカラサルニ  
 至ル該院明ニ其那邊ニ及ヘルヲ決定シ得ル  
 ニ達セサルヨリハ敢テ之ヲ為テ、ルナリ  
 若シ一地方ニ在リ学務局ヲ造設スルノ時ニ  
 方テヤ統学院ヤハ則チ諭令ヲ出シ之ニ送達

スルノ權ヲ有シ又其地方ニ向テ要ト認視ス  
 ル公立学校供給ノ総額及ヒ其種類ヲ指示シ  
 且ツ直チニ斯ノ如キノ学校供給ヲ處スルノ  
 方法施為セシヲ以テ其局ニ要ス然リト亟ニ  
 他ノ某学務局ノ敢テ統学院ノ諭令ヲ收受ス  
 ルヲ待タズ直チニ其地方ノ為メニ公立学校  
 ノ供給ヲ設備スルニ着手スルヲ得ヘキモノ  
 アリ(第十九章ヲ觀ルヘシ)  
 統学院其既ニ設立セラレルノ学務各局ニ對  
 シ報告ヲ發シ之ニ載説スルニ統学院ノ此ノ



如キ諭令ヲ發スルヤ此ニ數個件ニ就テ詳密  
ノ申状ヲ受取セシテ以テ至要ナリトス即チ  
其第一ニ曰ク公立学校ノ供給ニ関シ縣地若  
クハ濟貧稅地ニ於ケルノ所要第二ニ曰ク現  
ニ存スルノ学校給備ノ總額及ヒ其種類第三  
ニ曰ク其学区内ニ在リ学校供給ヲ保全スル  
ノ任ニ関スルノ輩ヲシテ確然認了セルノ其  
々缺乏ヲ補フノ意見ヲ申陳セシムルノ方法  
是ナリ統學院ハ學務局ニ要スルニ此等ノ教  
件ニ就テ摘要申状ヲ以テ該院ニ上申スルノ

職掌ヲ擔當スヘキヲ以テシ又其究問中該院  
ヲ補助スルノ意見ヲ以テ此條例中第六十八  
章ニ掲ルノ申状ヲ呈進セシテ以テセリ統學  
院所定報告ノ如キハ下條ニ記スル所ノ者ヲ  
載セリ

第一 縣地若クハ濟貧稅地疆内ニ在ル兒童  
輩ノ為メニスル初學教育法ハ其齡甫メテ三  
歳乃至五歳ノ間ニ在ル兒童ノ為メニ設クヘ  
ク又其年齒五歳以上十三歳以下ニ在ル者ノ  
為メニ設クヘキナリ 第二 此ノ如キ兒童



輩ノ要件ヲ濟成スルノ豫備ヤハ学務局熟考  
 之以テ是レ既ニ實効アルノ学校ニ於テ設備  
 セラレル所ナリト為シ或ハ熟考ニ若クハ設  
 置セントスルノ際ニ於テ恐クハ將ニ学校ニ  
 在リ設備セラレントスル所ノモノトスル第  
 三 第一ト第二トヲ比較シ依テ顯示スルノ  
 實効アル初学教育法ヲ設備セントスルニ於  
 ケルノ供給缺乏 第四 何様ノ方法ヲ設ケ  
 テカ学務局果シテ学校ノ此缺乏ヲ補ヒ得ヘ  
 キニ就テ陳說スルノ件 第五 斯ノ如キノ

学校ヲ以テ要トスル地方ノ精教實効アルノ  
 初学教育法ヲ設備セルノ学校ニ至テハ應ニ  
 之ヲ下條ニ載録スルノ綱領中ニ排列スヘキ  
 ナリ 甲 学校ノ現ニ統学院ヨリスルノ各  
 年ノ扶助ヲ受ル者 乙 学校ノ斯ノ如キ扶  
 助ヲ蒙ラス而シテ管制セラレテ公立初學校  
 ト為リ各年ノ扶助ヲ受クヘキ者 丙 学校  
 ノ更ニ各年ノ扶助ヲ蒙ル能ハサルモノ等是  
 ナリ  
 統学院告知スル所アリ其言ニ曰ク我上院ノ



懸慮シテ以テ學務局ノ補助ヲ得ニト欲シ又  
學校供給ヲ設備スルノ最良方法ニ就テ其局  
ノ意見ヲ申狀シ為メニ統學院ヲ補助スルア  
ラシメント欲スルヲ以テノ故ニ該院ハ乃チ  
缺乏ノ総額(若シ缺乏スルアルノ片ニ於テス  
ル所)ノ如キハ之ヲ積ミ以テ其総額ヲ決定告  
知スルノ結末事務ヲ擔當スルヲ脱却シ遁ル  
、得テ為スヘカラサルナリ此故ニ統學院ハ  
今要請セルノ報告及ヒ呈狀ニ精細注意シ熟  
考シ以テ須要ト認メ乃チ為シ得ヘキ所ニ隨

ヒ又自ラ検査ヲ行フノ権力ヲ具有セサルヘ  
カラス而シテ既ニ之ヲ行ヒ了ルニ及テ統學  
院ハ此條例中第十二章ノ約款ニ從ヒ諭令ヲ  
出シ學務局ニ送達スヘシト又第三百三十二  
條ヲ觀ルヘシ

統學院ヨリ下囑セラレルノ呈狀ヲ為サント  
スルノ正鵠ニ向テ要スル告知ヲ得ニトシ依  
テ學務局ニ於テ用エル資費ニ至テハ則チ學  
務局之ヲ濟却セスレハアルヘカラス其故何  
トナレハ此呈狀ノ如キハ第六十九章中ニ設



置セラレル所ノモノニ非サルヲ以テナリ

第十三章第一年ヲ経過スルノ後起程以來

云統学院並ニ施為スルノ處法

某學區ニ関第一年後ニ及ヒ此條例ニ從ヒ其々  
呈狀ヲ收受シ了リ而シテ統学院ノ以テ緊要ト  
認ルノ検査ヲ行ヘルニ及テヤ統学院ハ乃チ此  
條例中第一呈狀ノ情況ニ於ケルト同一方法ヲ  
以テ斯ノ如キノ地方ニ在リ何等何様ノ公立学  
校供給ヲ以テ主要ト為スヘキヲ熟視スヘシ而  
シテ斯ノ如キノ學區中此條例ニ合スル一學務

局ノ在ラサルニ逢ハ、則チ猶此條例ニ從ヒ第  
一呈狀ヲ收受スルノ後ニ於テスル所ト同一方  
法ニ據レルノ報告ヲ公示シ又其處法ヲ施行ス  
ルヲ得ヘク還テ斯ノ如キ學區ノ既ニ學務局ヲ  
設在スルモノニ逢ハ、則チ此條例ニ依テ指示  
セラレルノ方法ニ照シ處置スヘキナリ  
統学院ハ終始告狀ヲ進呈セヨト命シ得ルノ  
権力ヲ附セラレリト云凡而モ年々之ヲ一回  
スルヲ得ヘキノミ(第六十七章ヲ觀ルヘシ)學  
務局ヲ設ケサルノ地方ニ在テ之ヲ處スルノ



法ニ至テハ第八章及ヒ第十章ニ就テ勸学務局ヲ設ケル地方ニ在テ之ヲ履スルノ法ニ至テハ第十八章ニ就テ觀ルヘシ

第十四章学務局ニ依テ学校ヲ管理シ及ヒ之ヲ維持スルノ説 学務局ニ依テ学校ヲ管理スルノ説

学務局ニ依テ設ケラレルノ学校ニ至テハ各下條ニ登載スルノ規條ニ合シ應ニ学務局ノ指揮管理スル所ト為ルヘキナリ

第一款 此條例ノ義ニ據レハ則チ此学校ノ如

キハ宜ク公立初學々校タルヘキ者ナリ

公立初學々校ナル稱名ノ解明ニ至テハ宜ク之ヲ第七章ニ就テ觀ルヘシ

第二款 宗教上ノ問答書牒ニ宗教上ノ禮式簿ニシテ其々殊別宗門ヨリ區別セラレルモノ、如キハ是レ此学校ニ在リ當テ教授スヘカラサル所ナリ

此章ノ如キハ一々唯是レ学務局ニ依リ設立セラレルノ学校ニ用ユルニ適スル所ナリ抑



學務局ノ設立スル所ニ係ルノ学校ニ至テハ  
此ニ某宗教上ノ禮式及ヒ教訓等ヲ執行セシ  
ト決シ若クハ否セサラント定ルカ如キハ一  
ニ學務局ノ處スル所ニ係ルノミ然リ而シテ  
其何レノ事情ヲ問ハス斯ノ如キノ某学校中  
ニ行フ宗教上ノ教訓ニ至テハ皆某宗教上ノ  
問答書及ヒ宗教上ノ禮式簿ノ某々殊特名称  
ノモノト相分別セラレルモノヲ教授スルノ  
事ヲ包括スヘキノ義嘗テ之アラサルナリ且  
ツ夫レ此学校ニ在リ何様ノ宗教教訓若クハ

禮式ヲ執行スルニ至テハ之ヲ要スルニ全ク  
第七章中ニ載録セルノ規條ニ表示セル規矩  
ニ從ヒ又此章ニ依リ熟考セラレルノ時間表  
ニ符合セサルヘカラス第十六章ニ據レハ統  
学院ヤハ則チ學務局或ハ此章中ニ揭示セル  
ノ規條ニ背反シ若クハ之ヲ濟成スルヲ謬ル  
等ノ所為アルニ際スレハ則チ該局ニ對シ之  
ヲ責問スルノ權カヲ附セラレリ  
第二十三章中ニ擧ルノ條款ニ從ヒ學務局ニ  
交付セル学校ノ如キハ其學務局ニ管理セラ



ル、ノ間ニ在テハ則チ第十四章ノ義ニ據リ、  
猶之ヲ彼ノ學務局ニ依リ設立セラレルノ學  
校ト認ムヘキナリ

倫敦府ニ在ルノ學務局ニ於テ曾テ其局ノ設  
立スル所ニ係ル學校中ニ施行スル宗教上ノ  
教訓ニ関シ下ニ出スノ議定ヲ為セリ其一ニ  
曰ク學務局ノ設立ニ係ル學校ニ在テハ宜ク  
經典ヲ誦讀シ又脩身法及ヒ宗教上ノ經理ニ  
シテ兒童輩ノ才能ニ適應スルノ解明及ヒ教  
訓ヲ以テ授与スヘク且ツ下ニ舉ルノ條件ヲ

設置セヨ其一ニ曰ク斯ノ如キノ解明及ヒ教  
訓ニ至テハ宜ク第七章及ニ第十四章中ニ舉  
ルノ條款ニ就テ精細以テ其文語及ニ意義ニ  
注目スヘキナリ又曰ク斯ノ如キノ某學校ニ  
在テヤ宜ク兒童輩ヲシテ某々殊特宗門ニ皈  
順セシメシニ注意スル勿ルヘシ其二ニ曰ク  
某々殊特學校ニ係レハ則チ學務局ハ其管理  
者輩及ニ父母若クハ該學區内納稅者輩ノ願  
請スル所ニ就テ之ヲ熟思シ之ヲ決定スヘシ  
而シテ此輩ハ又其議定ノ全所業若クハ一部



所業ヲ以テ学校ニ蒙ラシメヤランニ就テ殊  
 別原因ヲ顕示スルヲ得ヘシ其三ニ曰ク既ニ  
 決定セルノ議ニ依リ證認セラレルノ解明及  
 ヒ教訓等是レ皆学校教師中孰ク得其任ニ堪  
 エハキノ輩以テ授与スヘキ所ナリ  
 又祈念及ヒ神歌ニ関シテハ則チ倫敦府学務  
 局ノ如キハ此ニ下ニ挙ルノ定議ヲ為セリ  
 其一ニ曰ク存立セル初学々校一般ノ實驗ニ  
 照據シ乃チ終始該局ノ設立ニ係ル学校中新  
 念ヲ行ヒ神歌ヲ唱フルヲ為メニスルノ款條

ヲ成シ得ヘシ然レハ則チ第七章程初学教育條  
 例中ノ款條ニ從ヒ宗教上ノ禮式ヲ實施スル  
 ヲ得ヘキナリ 其二ニ曰ク夫レ斯ノ如キ宗  
 教上ノ禮式ヲ整正スルノ事務及ヒ教師管理  
 者父母若クハ地方ノ納稅者等学務局ニ上訴  
 シ判決ヲ仰クノ權利ノ如キハ供セテ之ヲ各  
 学校教師及ヒ管理者輩ノ裁判ニ附スヘキナ  
 リ又某祈念ヲ行ヒ某神歌ヲ唱フルノ事ニ至  
 テハ常ニ第七章程及ヒ第十四章中ニ挙ル條例  
 ノ款條ニ就テ精細注目スル所アラニヲ決セ



ヨ而シテ児童輩ヲシテ某殊特宗門ニ依依セ  
シメニニ注意スル勿レ

第十五章学務局ニ依テ學監ヲ命スルノ說  
夫レ學務局自ラ以テ適當ト為スヤ則チ特リ貨  
幣ヲ募集スルノ権力ニ非サルヨリハ此條例中  
ニ奉ルノ権力ノ如キハ其何レヲ問ハス終始常  
ニ之ヲ使用スルヲ得ヘク且ウ一ニ其局ノ設立  
セル某学校ヲ管制シ之ヲ處置スルニ至テハ殊  
ニ大ニ其権力ヲ使用シ得ヘシトシ又該局ノ命  
スル所ト為リ乃チ三負以上ヲ以テ成レルノ管

理者輩ニ對スルニ及テハ其何等ノ規則何等ノ  
制限ヲ以テスルト以テセサルトヲ問ハス又大  
ニ其権力ヲ用ヒ得ヘシトス  
學務局ハ常ニ斯ノ如キ管理者總負若クハ教輩  
ヲ免黜スルヲ得又此章ニ奉ルノ権限中其負ヲ  
増減ヲ得ヘク或ハ其他此章ニ從ヒ設ケラレル  
某々管理者輩ノ職掌若クハ権力ヲ變換スルヲ  
得ヘトス

此章ニ奉ルノ義ニ從ヒ任命セラレル某々管理  
者ノ如キハ告白書ヲ學務局ニ上呈シ以テ其職



ヲ辞スルヲ得ヘシ抑此條例中第三附賀條目ニ  
包載セルノ規則ニシテ即チ學務局ニ依リ任命  
セラレル管理者輩ヲ處置スル件ニ係レル規則  
ノ如キハ當ニ湏ク注視スヘキ所ナリ

學務局ヤハ唯此條例ニ準ルノ権力ヲ使用ス  
ルヲ委任セラレルノミ而シテ學務局ノ處置  
法ニ關セル第三附加條目中ニ揭示セル規條  
ハ則チ以テ管理者ノ處置法ニ係ル同一  
ニ記載セルノ規條ト相兩立スヘカラサルヲ  
以テノ故ニ學務局ノ任命セルノ管理者ニ用  
ニルニ連スヘキナリ

第十<sup>六</sup>章 公立初学々校ノ規條ニ就テ學務局  
怠慢ニ附スルノ事

學務局ノ設立スル所ニ係ル学校ニシテ若シ此  
條例ニ依リ管制セラレシチ要スルモノニ在リ  
行フノ規條ニ背反シ或ハ全ク其規ニ從フ<sup>レ</sup>怠リ  
若クハ之ヲ誤ル等ノ所為アリ該局自ラ之ヲ施  
為シ若クハ施為スルヲ許スアレハ則チ統學院  
之ヲ以テ過失ヲ為セルノ學務局ト為シ公告ス  
ルヲ得ヘク是ヲ以テカ<sup>ス</sup>ノ如キノ學務局ハ乃  
チ過失セル所アル者ト為シ認メラル又統學院



ハ該學務局何レノ委員ト虽氏該局ノ任命スル  
 所ニ係ルノ管理者及ヒ該局所管ニ屬スルノ某  
 人ト虽氏其無過ヲ證スルニ非ナルヨリハ必ス  
 該院自己ノ意見ニ依リ各事ヲ施為シ又此輩ヲ  
 免黜スル是レ得テ為スヘキ所ナリトス  
 規條即チ之ヲ遵守シ以テ學務局ノ設立スル  
 所ト為レル學校ヲ管制スルノ規條ニ至テハ  
 第十四章ニ就テ觀ルヘク又學務局過失ヲ為  
 セルニ方リ統學院之ヲ処置スルノ方法ノ如  
 キハ第六十三章及ヒ第六十六章ニ就テ觀ル

一八シ

學務局施為セル所ノモノ若クハ同局ヨリ許可  
 セル所ノモノニシテ倘上ニ擧ルノ規條ニ背反  
 スルノ某行為ニ屬シ若クハ全ク之ヲ遵守スル  
 ニ謬ルノ某行為ニ係ルト否ラサルトニ係リ爭  
 議起テスルアレハ則チ宜ク之ヲ統學院ニ托シ  
 該院ノ所決ニ依リ以テ結局ト為スヘキナリ  
 第十七章兒童輩ノ學謝  
 某學務局ニ依テ設立セラルルノ學校ニ入學ス  
 ルノ兒童輩ハ則チ各統學院ノ許可ヲ得乃チ該



學務局ノ命スル所ト為レハ毎週日ノ學謝ヲ上  
 納スヘク而シテ該學務局ノ如キハ其再新スル  
 ノ期日漸ク積テ六個月ニ至ラサルヨリハ則チ  
 其學謝全額若クハ一部チ免附スルヲ得ヘシ其  
 然リスルヤ唯某兒童アリ之カ父母タル者貧困  
 依テ該學務局之ヲ認メ是レ學謝ヲ貢スルニ堪  
 エサル所ノ者ナリト為スニ方テスル所ナリ然  
 リト雖モ之ヲ免附スル所ノ如クスルヲ以テ得  
 テ這樣ノ父母ニ給與セル濟貧稅地ノ扶助ト同  
 一視スヘカラス

此章ハ是レ唯學務局ノ設ル所ニ屬スル學校  
 ニ在テ施行スヘキ所ノミ而シテ第二十五章  
 ニ擧ル所ノ如キハ某公立學校中某兒童アリ  
 之カ父母タル者貧困乃チ學謝ヲ貢スルニ堪  
 エサル在レハ則チ學務局ニ依頼シ學謝ヲ下  
 附スルヲ蒙ル第二十六章ニ批レハ學務局ノ  
 所察ニ依リ以テ必要ナリトスレハ則チ統學  
 院ノ批准ヲ仰キ學校ヲ設立スルヲ得又此學  
 校ニ在テハ敢テ學謝ヲ出スチ學徒ニ要セサ  
 ルモノトス抑人ノ父母タル者貧困乃チ學謝



ヲ出サシムルヲ免宥スル果シテ其當ヲ得ル  
 所ナルト否ラナルトヲ決定スルカ如キハ一  
 二是レ學務局ノ任スヘキ所ノモノトス  
 學謝ヲ出サシムルヲ免宥スルヲ以テ之ヲ其  
 父母ニ救與スル濟貧稅地ノ扶助ト同一視ス  
 ヘカラナル所以ノ預約ナル者ハ確然之ヲ決  
 シテ即千之カ免宥ヲ蒙ルノ父母タルモノハ  
 巴カ門ノ撰舉若クハ都府公會委負ヲ撰舉ス  
 ルニ方リ發言スルヲ得ルノ權ヲ有セタルモ  
 ノナリトス

附例ハ則チ此條中ニ舉ル學務局ノ處法ヲ整  
 正スルニ於テ得テ施為スヘキ所ノモノタリ  
 第七十四章ヲ觀ルヘシ  
 此條例中ノ款條ハ是レ「ヴグトリヤ」女王制定  
 律令第三十四章第十八号及ヒ第十九号「テニ  
リ」氏條例ニ從ヒ「ボ」ルドオスガルデヤン  
スト保人局ノ權力即チ某貧民兒童ノ其年齒四  
 歲以上十六歲以下ニ在ル者ヲ以テ教育ヲ某  
 學校中ニ蒙ラシメント欲シ保人局ノ許可ス  
 ル所アリ困テ貧民ナシテ作工場ニ入り以テ



之ヲ償却セシムルノ正鵠ヲ立シ該局之カ扶  
助ヲ給スルノ権力ヲ減却セサル者トス然リ  
而シテ又如上ノ條例中ニ記載スルノ言アリ  
曰ク扶助ヲ要スルノ児童ニ與フルニ教育ヲ  
以テスル所ノ如クスルヲ以テ扶助ヲ行フノ  
一事措ト為シ一ニ之ヲ保人ニ任スル之ヲ其  
法ニ適セサル所ノモノトス

第十八章學務局ニ依テ學校及ヒ充足セル  
ノ學校供給ヲ維持スル

學務局ハ其自ラ設立セルノ有効各學校ヲ維持

シ之ヲ保護スヘク而シテ學校供給ヲ増加シ該  
局ノ所見ニ依リ其所管學區ノ為ニ公立學校供  
給ノ充足總額ヲ準備スルニ要ナリトセハ則チ  
終始之ヲ設備スヘキナリ

學務局ハ某諭令ヲ統學院ヨリ受ルナキモ其  
所要學校供給ノ設備ヲ處置シ得ヘキナリ宜  
ク第十九章ヲ見ルヘシ

學務局ハ其自ラ設立スル所ニ係ルノ某學校ヲ  
廢シ若クハ位置ヲ轉移スルヲ為シ得ヘシ其故  
何トナレハ若シ夫レ學務局茲ニ某學校ノ如キ



ハ以テ要ト為サ、ル所ナルヲ以テ將ニ之ヲ廢  
 シ若クハ某學校ノ如キハ其位置ヲ變スル所ノ  
 如クセハ則チ其宜キニ適セントスルノ事故ヲ  
 以テ統學院ニ訴ヘ該院之ヲ認メテ可トスルニ  
 至レハ則チ敢テ之ヲ施為スヘケレハナリ  
 學務局ニ屬スルノ某地土若クハ學校地ヲ賣  
 與シ貸附シ若クハ之ヲ交換スル等ノ件ニ至  
 テハ宜ク第二十二章及ヒ第七十八章ニ就テ  
 觀ルヘク又學監ノ以テ學務局ニ讓與セル學  
 校ヲ以テ再ヒ之ヲ學監ニ賣付スルノ件ニ至

テハ第二十四章ニ就テ觀ルヘシ  
 統學院茲ニ決議シ以テ倘某學校ハ其職務ヲ完  
 成スルニ誤リ即チ其所設ニ係ル有効各學校ヲ  
 維持セス或ハ保護セス若クハ其地方ニ在ル公  
 立學校ノ供給總額ヲシテ充足ナラシメントシ  
 乃チ統學院ノ意見ニ依テ要ト認ル學校供給ノ  
 増加ヲ設備セス其職務ヲ奉スルヲ課レリト為  
 サハ則チ其成就スルニ課レルノ職務ヲ完成セ  
 ヲト要スルノ諭令ヲ出シ之ヲ該局ニ送遣スル  
 事得ヘシ而シテ若シ該學務局其諭令ニ依テ限



制セラルルノ期日即チ三個月以上ノ時日間ニ  
在テ統學院ノ要スル所ヲ完成スルニ誤ルヤレ  
ハ則チ過失ヲ為セルノ學務局ト認メラルヘク  
又統學院ハ乃チ其処法ヲ施為スルヲ得ヘシ  
學務局ノ過失ヲ為セルモノニ至テハ之ヲ第  
六十三章及ヒ第六十六章ニ觀ルヘシ

第十九章學校ヲ設立スルニ係ル學務局ノ  
權力

學務局ノ如キハ各其地方ノ為ニ充足セル公立  
學校ノ供給ヲ設備スルノ正鵠ニ於テ假令某論

令ニ從順スルモ或ハ否テサルモ新ニ建築スル  
ニ依リ若クハ他ノ方法ヲ用井以テ準備シ適當  
ナラシムルノ學館ヲ設立シ得ヘク又設局設立  
セルノ其學館ヲ更正シ擴充シ準備スルヲ得ヘ  
ク而シテ該局ニ依テ設立セラレル學校ノ實効  
ヲ奏スルニ要スルノ學校器具及ヒ諸物ヲ充備  
シ又某地土ヲ買求シテ之ヲ貸附シ其稅ヲ納レ  
得ヘク又土地ニ関シテ某々權利ヲ有シ或ハ得  
テ下ニ擧ルカ如キノ權力ヲ使用スヘキノ者タ  
リ



學館ト稱スルモノ、解明ノ如キハ之ヲ第三章ニ就テ觀ルヘシ、第二十三章中ノ款條ニ舉ルノ學校管理者ノ以テ學務局ニ讓與セルノ某初學々校ノ如キハ之ヲ學務局設立セルノ學校ト認ムヘキナリ、土地ヲ買求スル等ノ件ニ關セル學務局ノ権力ニ至テハ之ヲ第二十章及ヒ第三百二拾七葉ニ觀ルヘシ、學校圖ヲ製作シ之ヲ準備スルニ於テ總學院ヨリ之ニ注意セヨト要セ且ノ規則又學館ヲ建築スル等ノ事件ニ係ル批准ノ如キハ一千

八百七十年発行訂正法書中ニ就テ設定スル所ナリ又此ニ學校ヲ設立シ及ヒ之ヲ準備スルニ關シ當ニ貴重スヘキノ告知ヲ載セリ附錄第二百六十一葉ヲ觀ルヘシ

第二十章強テ學校地ヲ買獲スル下ニ此條例ノ正鵠ニ向テ學務局ニ依リ土地ヲ買求スルニ係テヤ下ノ款條ニ舉ル所ノ如ク之ヲ細言セハ

強テ土地ヲ買求スルニ就テハ規條

第一款 一千八百四十五年発行土地款條固結



一 均 上 第  
條及ヒ此等ノ條例ヲ改正セル者ノ如  
キハ唯特別定例ニ増加スル者ニ関ス  
ルノ條款ヲ除クノ外總テノ條款ヲ言  
フ此條例ト相合スヘク而シテ此章ノ  
正鵠ニ向テ此等ノ條例ヲ解明セシニ  
特別條例ノ如キハ此條例ノ意ヲ含包  
スル者ナリトシ之ヲ解明スヘク而シ  
テ作業ヲ鼓舞スルノ輩ハ學務局ノ意  
ヲ含包スル者ナリトシ之ヲ解明シ又  
二百ノ土地ノ如キハ土地ニ就テ某權力ヲ有

スル者ナリトシ之ヲ解明スヘキナリ  
一千八百四十五年癸刊土地款條固結條例及  
ヒ改正條例ハ即チ「<sup>ウキ</sup>」トリヤ女王制定律令  
書第十八條第十三條第二十四條同第一百六  
條第三十二條第三十三條ニ出ス所是ナリ抑  
此條例ノ如キハ一ニ唯是レ學務局ニ依テ要  
セテレルノ土地ニ在テノミ用エヘキモノタ  
ル宜ク此ニ注視スヘキ所ナリ而シテ第二十  
一章ハ以テ公立初學々校管理者輩ニ依テ土  
地ヲ購求スルノ件ニ関涉セル條款ヲ包載ス



土地條例中ニ擧ルノ款條ニシテ相約束スル  
 事用并ス他ノ方法ニ依リ土地ヲ買獲スルノ  
 款條ヲ存シ執行セシカ為メニスル緊要處置  
 法ノ如キハ則チ是レ特リ大非常ノ際ニ方テ  
 之ニ依賴スヘキ所ナル明ナルヲ以テノ  
 故ニ此知法ニ拠ルカ如キハ宜ク大ニ慎ムハ  
 キ所ナリ土地ヲ撰用スルニ就テ報告ヲ奏ス  
 ルノ期月ヲ設ルノ議ナルモノハ是レ我上院  
 ニ於テ始メテ行ハレル所ナリ  
 契約ニ依リ土地ヲ購求スルニ係ルノ款條ニ

據レハ則チ其無力土地ヲ償却スルノ輩ニ至  
 テハ土地ヲ賣却シ若クハ其要セラレル土地  
 ノ子金ヲ出サ、ルヘカラサル者トス而シテ  
 無力人ニ償與スルノ代價ニ至テハ陪審官此  
シテ孰明セシカ為メ誓為テセラルル者ニ決  
 断若クハ判者此兩黨ヨリ断セシカ為メ言  
 々ノ裁断ニ依テ其總數ヲ決定セルニ非ナレ  
 ハ則チ兩黨各擧ケル方量官所裁ノ估價ヲ以  
 テ決スルノ抑方量官ハ即チ兩黨撰註者ニ  
 各一人ヲ撰擧スル所ニ出ルノ者ニシテ二



個方量官之ヲ約決スル能ハサル片ハ則チ第  
三方量官之處裁ニ依ル之カ估價ヲ定メ所謂  
ル第三方量官ノ如キハ此正鵠ニ向テニ法官  
ノ撰擧スル所ニ出ル者タリ  
強テ土地ヲ買求スルニ要スルノ代價其數若  
シ五十磅ニ越エサル片ハ則チニ法官得テ其  
要スル所ヲ確定シ又若シ其一方ヨリ要シ或  
ハ他ノ一方ヨリ出スノ代價其數五十磅ヲ越  
エ而シテ之ヲ要スルノ徒陪審官ノ裁決ヲ仰  
キ其要スル所ヲ決セラルニ非ナレハ則チ

判者ノ裁斷ヲ以テ之ヲ定ルヲ得ヘク即チ其  
黨ノ欲スル所ニ從フヲ得ヘシ又若シ判者ノ  
裁斷ニ依テ代價ノ額ヲ定メントシ而シテ兩  
黨相合ニ一個ノ判者ヲ撰擧シ之カ処分ヲ仰ク  
ニ同意スルニ非ナレハ則チ各黨一個ノ判者  
ヲ撰擧シ此二判者自ラ又更ニ一個ノ判者ヲ  
撰擧スヘキモノトシ若シ陪審官ノ斷決ニ依  
テ訴ヲ決セントスルアレハ則チ其陪審官ノ  
如キハ之ヲ此検査吏ヲ監督スルノ法官中ヨ  
リ撰ムヘキモノナリトス又兩黨各其疑吏ヲ



以テ之ヲ特別ノ陪審官ニ托シ糾明セント要  
 スルヲ得ヘク而シテ其一箇年若クハ連年ニ  
 亘リ唯借地人タルノ利益ヲ得更ニ之ヨリ大  
 多ナルノ利益ヲ得ル能ハサルノ人ニ係レル  
 所ニシテ兩黨若シ同意セサルアレハ則チ二  
 法官得テ其代價總額ヲ裁定スヘキナリ  
 第一款 契約ヲ用弁ス更ニ他ノ方法ニ依テ土  
 地ヲ買得スルノ件ニ関シ上條既ニ擧  
 ケル條例ノ権力中ニ含包セル某々權  
 カヲ以テ之ヲ實地ニ施行セントスル

公報布告

ニ方テヤ學務局ハ亘ク先ツ下ニ擧ル  
 ノ條ヲ告示スヘキナリ即チ曰ク

甲 第十月及ヒ第十一月ノ二月ニ亘リ三

週日ヲ連子茲ニ布告ヲ公發シ之ニ載  
 録スルニ簡ニ其土地ヲ得ントシ申陳  
 スルノ眼目ヲ以テシ又其得ントシ申  
 陳スル土地ノ圖ヲ容易ニ一見セシメ  
 ントシ乃チ榜示セル位置ノ名字ヲ指  
 示シ學務局所要土地ノ多寡ヲ定ムヘ



ク且ツ其他下ニ擧ル所ノモノヲ公告  
スヘシ即チ曰ク  
報告ヲ與フル

乙 公告スル上ニ言フ所ノ如クセルノ後  
又此章中ニ記載セルノ方法ニ依リ各  
有主各借主及ヒ該地ニ居処セルノ人  
ニ向テ報告ヲ與フヘク而シテ其方ニ  
得ント欲スルノ一殊土地ヲ確定シ報  
告ヲ受ケルノ人ヲシテ斯ノ如キノ土  
地ヲ得ントスルヲ肯スルト將ク肯セ

ルトヲ決シ又局外中立ノ人タルト將  
ク否ラサルトヲ決スルノ應答ヲ為サ  
シメンキ要ス

丙 即チ上ニ擧ルカ如クシ以テ報告ヲ與  
フヘキナリ

甲 其與ヘヨト要スルノ人ニ向テ直チニ  
報告ヲ附シ又其本人若シ他出シ家郷  
ニ在ラナルニ逢ハ、則チ其代理者ニ  
附スルニ依テシ若リハ

乙 報告ヲ以テ直チニ上ニ所謂ル本人生



平ノ家宅若クハ旧宅ニ送遣シ或ハ其  
生平ノ居宅若クハ旧宅ノ名ヲ署シ郵  
便ニ托シ以テ之ヲ送ルニ依テス

統學院ニ向テ願請スルノ件

第三款 報告ニ関シ此章中ニ包載セルノ款條

ニ從フヲ以テ學務局若シ之ヲ適當セ  
リト為セハ則チ該局ノ信印ヲ結ヘル  
ノ願狀ヲ統學院ニ呈シ如上ノ諸條例  
中ニ記載セル土地ニ係リ契約ヲ用井  
ス更ニ他ノ方法ニ依リ之ヲ買得シ若

クハ之ヲ収ルニ就テ上ニ説過シ来レ  
ル諸條例中ニ舉ル権力ヲ實施シ得ル  
ノ權ヲ與フルノ命ヲ出セト請フヲ得  
ルシ抑此願狀ニ載スルニ方ニ収メシ  
ト要スルノ土地及ヒ之ヲ要スル所以  
ノ眼目有主共ニ借主ノ姓名其他該地  
ニ居住スルノ輩即チ斯ノ如キ土地ヲ  
収メント要スルノ件ニ係リ之ヲ肯セ  
ル者肯セサル者若クハ局外中立タレ  
ルノ人及ヒ此報告ニ對シ敢テ應答ヲ



申呈セサレル者ノ名字等ヲ以テシ而シテ統學院ノ常ニ證據ヲ要スル所ニ係ルモノニ逢ハハ宜ク之カ證據ヲ立スヘキナリ

第四款

願狀及ヒ公告證據其他妥當ノ報告ヲ附與スル等ノ更ニ熟慮シ而シテ之ヲ施行スルヲ以テ適當ナリト為セハ則チ統學院茲ニ某人ニ命シ其土地ノ所在地方ニ就キ其上申請求セルノ命令ヲ下シ果シテ適當ナルト否ラサルト

チ検査セシメ其他又斯ノ如キノ人ニ命シ公検査ヲ行ハシムルヲ得ヘシ

公検査ノ如キハ之ヲ第七十三章ニ就テ觀ルヘシ

第五款

夫レ熟察スル所ノ如ク以テ證據ト為スヘキ所ヲ認了スル所ノ如ク其検査ヲ終ヘ因テ成レルノ申狀ヲ收受スル所クシ去ルニ至レハ則チ統學院茲ニ其請求セラレルノ命ヲ下シ學務局ニ與フルニ契約ヲ用キ更ニ他ノ方法



二依テ土地ヲ買得シ若クハ之ヲ収ル  
 二係リ上ニ説過セル諸條例中ニ擧ル  
 ノ権力ヲ以テ實地ニ施行ス得ルノ権  
 力ヲ以テスルヲ得ヘク或ハ諸條例中  
 ニ擧ル権力中ノ某々権力及ヒ其権力  
 中ニ全存スルノ権力若クハ純學院以  
 テ適當ト為スノ事情其他更改セルノ  
 権力ヲ實施セシムルヲ得ヘシ又學務  
 局ノ以テ職掌ト為シ務ムヘキノ度  
 リ此方法ニ依テ成レル即チ如ク如ク

ナルノ某命ヲ抄寫シ其方ニ収メント  
 スル也地ニ住スルノ人ニ與フル是ナ  
 リ抑、此條例ニ依レハ此命ニ關スル土  
 地ニ係ルノ諸報告ハ

上下兩院ノ判定ヲ經ルニ非ナルヨリ一命  
 令ト雖モ亦真個命令ト認ムヘカテナルノ

7

第六款 既ニ成ル即チ斯ノ如キノ命令ト雖モ  
 上下兩院ノ議定スル所ト為リ決セル  
 者ニ非ナルヨリハ之ヲ認メテ真個ノ



命令ト為ス可キナルモトシ又統學  
院ニ在テハ決定スル乃チ新ノ如キニ  
至ルヲ得乃チ之ヲ正當トス而シテ這  
様ノ命令ヲ確定スルノ法令ナル者ハ  
上下兩院公許セル一般ノ法令ト同一  
視スヘキノモタリ

第七款

統學院若シ新ノ如キノ命令ヲ出スチ  
忌ミ若クハ之ヲ変更スルアレハ其苟  
モ該院ニ認メテ適當トスル所ト為ラ  
ハ則ニ將ニ収メ去ラレシトヲ欲シ乃

チ申請スル所ト為レル地チ有スルノ  
主ニ對シ其土地代價及ヒ諸費其他之  
カ為ニ諸未シ検査セル等ニ屬セルノ  
費チ出シ給セヨト命スルヲ得ヘシ  
地價ヲ償却セシムルノ法當ニ如何カスヘ  
キ

第八款

此章中ニ舉ルノ某命令ニ係リ統學院  
茲ニ起セルノ地價負債及ヒ雜費ノ如  
キハ女王陛下ノ財政委員以テ適當ナ  
リトシ乃チ指令スルノ總額ニ至ルヘ



ク又統學院ノ許可スル所ト為ル即チ  
上ニ言フ所ノ如クナルキ得ルノ人ニ  
モチ乃チ出セル地價負債及ヒ雜費ノ  
如キハ則チ之ヲ此命ニ係レル地方ノ  
學校財本ノ負債ト為スヘキナリ

學校財本ノ條ニ至テハ之ヲ第五十三章及  
ヒ第五章ニ觀ルヘシ

而シテ上ニ所謂ル女王陛下ノ財政委  
員若クハ斯ノ如キノ人ニ對シ茲ニ年  
々一百磅毎ニ五磅ノ子金ヲ加ヘ年々

之ヲ賦還シ該委員以テ指令セルノ日  
ヨリ起算シ五個年ヲ越エサルニ及テ  
悉ク之ヲ償却スヘシ

校地條例ニシテ即チ此條例ニ屬スル第四附加  
條目中ニ解明セル所ニ據レハ學務局ハ此等ノ  
諸條例ニ於テ某校受托者若クハ該校管理者ヲ  
レルト同キ者ナリトシ之ヲ解明シ又土地ハ此  
章中ニ記載セル諸條例中ノ某條例ニ從テ之ヲ  
收ルキ得若クハ其一部ハ乃チ一條例ニ據リ又  
其一部ハ乃チ他ノ條例ニ從ヒ之ヲ收ルキ得ヘ



此章ニ係ル校地條例ハ、ウヰクトリヤ女王制定  
律令書第三十八篇第四号第五号同第三十七  
篇第七号第八号同第四十九篇第十二号第十  
三号同第二十四篇第十四号第五号ヲ抄輯ス  
ルニ成レル所ニシテ此等ノ諸條例ノ如キハ  
亦之ヲ附録第一百五十葉ニ出セリ得テ看出  
スヘキナリ

第二十一章公立初學々校管理者輩ノ土地  
ヲ購求スル事

公立初學々校管理者輩其學校ノ為ニ學館ヲ購  
求シ若クハ學校地ヲ買求セントスルノ主要ニ  
至テハ一千八百四十五年癸刊陸土條款同結條  
例及ヒ之ヲ改正スルノ諸條例契約ヲ用井ス他  
ノ方法ニ依テ土地ヲ買得スルニ係ルノ條ヲ除  
クノ外諸條款ヲ言フ、如キハ此條例ト合一ス  
ヘク而シテ此章ノ眼目ニ向テ此等ノ諸條例ヲ  
解明センニ夫ノ特別條例ノ如キハ以テ此條例  
ノ意ヲ有スル者ナリトシ之ヲ解明スヘク此作  
業ヲ扶助スル者ハ以テ管理者タルノ意ヲ有ス



ルモノトシ之ヲ解明スヘク又土地ノ如キハ土地ニ関スルノ某権力ヲ有スル者トシ之ヲ解明スヘシ

土地款條固結條例ニ至テハ第二十章下ニ擧ルノ傍註ニ就テ之ヲ觀ルヘシ抑契約ヲ用井ス他ノ方法ニ依リ土地ヲ買得スルニ係リ學務局ニ附與セルノ権力ヲ以テ之ヲ亦初學々校管理者輩ニ附與セヨト言フノ建言アリ議負ノ發議スル所ナリ而シテ此改正案ノ如キハ竟ニ拒斥スル所ト為レリ

上ニ言フ所ノ如リシ以テ買得セルノ某土地ヲ讓與スルノ件ノ如キハ之ヲ學校地條例ニ依テ決定セルノ法中ニ載セ或ハ校地條例中ノ某條例ニ載セ之ヲ改正シテ下ニ擧ル所ノ如クセル者アリ即チ曰ク土地ヲ讓與スルノ件ハ是レ土地ヲ以テ此條例中ニ包含スル公立初學々校ヲ設立スルノ眼目ヲ保證シ依テスル所ナリト此等ノ諸條例ハ之ヲ附録第一百五十葉中ニ記セリ得テ查出セン  
公立初學々校ト稱スルノ義ノ如キハ之ヲ第



七章中ニ解明セリ

若クハ又斯ノ如キノ正鵠ニシテ得テ悉ク其件  
ヲ枚擧詳説スヘキ所ノモノニ至テハ唯信保ス  
ルニ依テスヘク又更ニ他ノ正鵠アリ為ニスル  
所ニ非ナルナリ  
土地ヤハ此章ニ合一セルノ諸條例ニ從ヒ之ヲ  
得ヘク又校地條例若クハ彼此ニ條例中ノ某條  
例即チ一邊ハ乃チ一條例ニ從ヒ他ノ一邊ハ乃  
チ他ノ條例ニ依レルモノニ照スモ猶之ヲ得ヘ  
シトス

若シ夫レ人アリ公立初學々校ヲ設立セント欲  
シ乃チ之ヲ統學院ニ申請シ許可ヲ蒙ルニ至ル  
ハ此輩ヲ以テ之ヲ此章ノ眼目ニ向テ管理輩ト  
同一視スヘキナリ

第二十二章學館ヲ賣却シ若クハ之ヲ貸與  
スル  
一千八百五十三年ヨリ以テ一千八百六十九年  
ニ至ルノ間  
某施濟物ニ屬スルノ土地ヲ賣却シ貸附シ及ヒ  
交換スルノ件ニ係ル所ノモノニシテ學務局ニ



屬スル某地若クハ學館ノ該局以テ要ト爲ナ  
ル者アレハ則チ其條款ヲ擴充シ竟ニ其全有或  
ハ一部ヲ賣却シ若クハ貸附シ交換スルヲ得ル  
ニ至ラシムル宜ク之ヲ改正シ以テ下ニ擧ル所  
ノ如クナラシメヨ即チ曰ク此章ノ主眼ニ依リ  
乃チ此等ノ條例中ニ擧ルニ統學院ヲ以テ施濟  
委員ニ代ヘ認ルヲ以テセル是ナリ

施濟依托條例中ニ包括スル施濟物ニ屬スル  
土地ヲ賣却シ貸附シ及ヒ交換スルノ件ニ係  
ル條款ナルモノハ即チ「ウチ」女玉制定

律令書第一百三十七篇第十六号第十七号同  
第一百二十四篇第十八号第十九号同第一百  
三十六篇第二十三号第二十四号同第一百十  
二篇第二十九号第三十号同第一百十篇第  
三十二号第三十三号等ニ採ル所ナリ又第七  
十八章ヲ觀ルヘシ

第二十三章管理者輩學校ヲ以テ學務局ニ  
讓與シ得ヘキ事

學務局所在地方ニ在ル某初學々校ニ管理者ヲ  
レルノ輩ノ如キハ此條例ニ依テ設ルノ方法ヲ



以テ地方所在ノ學務局ニ交付スルニ其輩管理  
スルノ學校ヲ以テセントシ乃チ該學務局ト悞  
識スルヲ得ヘリ學務局ノ如キモ亦猶之ニ應諾  
スルヲ得ヘキナリ

現ニ存スルノ方法ニ從ヒ設ルノ自由學校管  
理者其學校ヲ維持スル正鵠ヲ度ルニ就テ此  
條例ノ款條ニ依リ學校ヲ以テ學務局ニ交付  
セント欲シ乃チ之ヲ維持スルニ要スルノ費  
用ヲ扶助セラレシトスルノ意見ヲ以テスル  
ニ至ルカ如キハ屢之アル所ニシテ是其當ニ

然ラズンハアルヘカヲナル所ナリ 此章ハ  
即チ特ニ此性質ニ係レルノ事件ニ應セント  
シ依テ設ル所ナリ

此章ニ屬スルノ悞議ナリモハ管理者輩茲ニ  
下ニ擧ルノ議決若クハ他ノ作業ニ依リ為シ得  
ヘキ所ナリ(即チ之ヲ細言セシニ)

第一款 何レノ處ヲ問ハス此ニ學校ノ憑信ヲ  
報知スルノ某々約書アリ存シ其約書  
中某方法若クハ某允准ニ依リ管理者  
輩ヲ固結スルノ定議ヲ成シ若クハ作



業キ為ス所ノモノヲ預定スルノ処ニ  
 在リ苟モ然レハ則チ其約書中ニ舉ル  
 ノ款條ニ照シ之ヲ協議スルヲ得ヘシ  
 第二款 又何レノ処チ問ハス嘗テ斯ノ如キ約  
 書ノ在ルナク又或ハ之アルモ斯ノ如  
 キ款條ヲ包載スルナキノ処ニシテ則  
 チ其管理者輩ヲ固結スルノ議ヲ定  
 メ若クハ作業スル乃チ斯ノ如クスル  
 乃チ唯尋常ノ事ノミト言フヲ以テシ

得ヘキノ処ニ在テハ得テ之ヲ協議ス  
 ヘキナリ

第三款 又若シ方法若クハ允准ニ依リ乃チ斯

ノ如リスル固ヨリ尋常ノ事タルヲ示  
 スナクシハ此正鵠ニ向テ集會セル社  
 黨ノ議席ニ列スル人員三中ノ二以上  
 ニ依リ決定セラルノ議ニ據リ之ヲ  
 為スヘキナリ

一千八百七十一年第七月十七日ヲ以テ教育  
 會議幹事茲ニ此章ニ舉ケルノ件即チ初學々



校ヲ以テ學務局ニ交付セントスルノ願請キ  
議判シ竟ニ下ニ登載スルノ定議ヲ採レリ

第一 憑信スルニ依テ決セラルノ豫定ノ  
件々ノ如キハ宜ク下ニ登載スルノ規則ヲ注  
視シ之ヲ明ニスヘキナリトス

第一款 申陳セルノ協議ニ屬スル黨類ノ權義

ニ關スルノ究問若リハ本趣旨ノ要件  
即チ其究問之ニ依テ活動スル所ノ者

ニ接觸スルノ究問ノ如キハ要スルニ  
是レ當ニ熟思スヘキ所ニシテ其黨類

中定算ノ助言者ニ依テ決定セラレス

而モ統學院ニ依テ検査ヲ蒙ラン  
トナシテ要セサルナリ

第二款 又其陳申セルノ某協議ヲ許スヘキト

否ラサルトキ熟察セントスルニ方リ  
統學院ノ如キハ其協議約束ナル者實

ニ該院ノ意見ニ符合シ又其理ニ當レ  
テハ預リヤト探思シ之ヲ證認センニ注意ス

而シテ何レノ時ヲ問ハス之  
ニ依テ其申陳スル所ヲ允准スルノ命



手下文能ハナルナリ

第二 私有ニ屬スル學校ニ係ルノ協議ニ至  
テハ則チ之ヲ此條例第十九章ニ照シ該館ノ  
有主及ヒ學務局之ヲ議定スヘリ敢テ該學院  
キシテ之ニ與ラシムルヲ要セナルナリ  
上ニ擧ルノ草案ヲ解明スルノ文語ノ如キハ  
宜ク之ヲ第三百二十七葉ニ就テ觀ルヘシ  
此章中ニ擧ルノ款條ニ從ヒ即チ學校ヲ以テ  
學務局ニ讓與スルノ方法ノ如キハ之ヲ附録  
第三百二十九葉ニ載セリ就テ觀ルヘシ

又一千八百四十一年癸卯校地條例(即チ「ウヰクト  
リヤ」女王制定律令書第三十八篇第四号及ヒ  
第五号)第十四章ニ照シ乃チ下ニ擧ルノ件ヲ  
豫定ス即チ其言ニ曰ク某學校ヲ設立スルニ  
方リ上下兩議院ヨリ救與セルノ一部ヲ以テ  
之ヲ學校建設費用ニ充テ若クハ將ニ之ニ充  
テントスルアルニ至テハ現在國務院卿ノ批  
准ヲ蒙ルニ非ナレハ則チ其學校ヲ沽却シ若  
クハ交換スルヲ得ヘカラスト抑此豫定ノ如  
キハ此ニ一學校ノ始メ設立セラルニ當リ



巴力門ノ批准ニ依リ扶助ヲ蒙レルノ者ニ於  
 テスル所ナリ而モ今ヤ又此條例第二十六章  
 ニ從ヒ這樣ノ學校ヲ以テ學務局ニ交付セン  
 トスルニ方リ當ニ國務卿ノ批准ヲ要スヘキ  
 カ將タ否ラサルヘキカヲ決セントスルノ究  
 問ヲ生セリ而シテ交付スルノ莫ハ則チ賣却  
 シ若リハ交換スルト其實チ異ニスル固ヨリ  
 明ナルヲ以テノ故ニ乃チ國務卿ノ批准ヲ要  
 セナルナリ

又下ニ擧ルカ如キノ各情況ニ際シ乃チ唯斯ノ

如キノ協議ヲ為スヘキナリ即チ曰リ  
 第一款 統學院ノ批准ヲ以テ之ヲ為スヘキ  
 第二款 又若シ年々資財ヲ出シ斯ノ如キ學校  
 為ニ方ニ合同セラレル會議席ニ列ス  
 ルノ出金人負中三分ニ以上ノ人之ヲ  
 可トシ乃チ此究問ヲ奏スルアレハ則  
 此ニ豫定スルノ件アリ即チ何レノ處ヲ問ハス  
 學校ノ憑信スル所ヲ布告スル某約書在ルノ處



ニシテ其約書中ニ載スルニ某人或ハ某方法若クハ某准許ニ從テ學校ヲ賣却スル件ニ関セルノ某預定ヲ以テスルマレハ則チ此章ニ擧ルノ某協議ノ如キハ乃チ預備スル既ニ斯ノ如クセルノ方法若クハ豫定スル既ニ斯ノ如クナルノ准許ニ依リ之ヲ就スヘキナリ  
茲ニ學校受托者アリ統學院之ヲ認メテ其校ノ管理者ト爲サ、ル片ハ則チ此受托者(若シ其名字ヲ聞知スル片ハ)ニ對シ該院以テ適當ト認ムルノ報告ヲ製シ管理者ニ托シテ之ニ與フヘキ

ナリ  
報告ヲ與フルハ法ノ如キハ之ヲ第八章ニ觀ルヘシ  
又統學院茲ニ彼ノ受托者申陳シ以テ交付セシト請ヘル所ニ就テ其得テ能クスヘキ所ヲ盡シ即チ陳說及ヒ以テ故障トスルノ所ニ涉リ宜ク思察スル所アルヘシ  
申陳シ以テ交付セント請ヘルノ件ニ係レル某故障若クハ陳說ナルモノ其學校設立ヲ助ケルノ某人ニ依テ爲スヲ得ヘキ所ノモノニ至テハ



統學院宜ク熟思シ以テ正當視察ヲ為スヘキナ  
 リ  
 人ト稱スルノ字語ハ即チ數個人ニ成レルノ  
 一會社ヲ包括ス 宜ク第三章ヲ觀ルヘシ  
 交付セルノ後六個月ノ期盡ルニ至レハ則チ統  
 學院ノ許可ナル者既ニ断然此章ニ舉ル所ノ者  
 ニ合符シ其協議成就セルヲ證スヘキモノナリ  
 トス  
 抑、此章ニ舉ルノ約束ノ如キハ學校管理者若ク  
 ハ管理者ヨリ托ヲ受ルノ人或ハ學校受托者所

有セル學館ニ屬スルノ益利ヲ以テ真ニ之ヲ學  
 務局ニ交付スルニ向テ設ルヲ得或ハ之ヲ該局  
 ニ貸附スルニ某制限ヲ設ケ若クハ制限ヲ設ケ  
 ス又唯貸付税ノ名ノミヲ以テシ若クハ他ノ方  
 法ヲ用エルヲ設定スルヲ得且ツ一學館ヲ用エ  
 ルニ一週日中ノ幾何日ハ乃チ學務局之ヲ用井  
 而シテ其他ノ日ニ在テハ管理者若クハ他人之  
 ヲ用エルノ議其他何レノ協議ヲ問ハス此ニ約  
 束シ得ヘキノ件ヲ設定シ得ヘシ  
 抑、制限ノ如キハ(之ヲ設ルアレハ)則チ此條例



中ニ擧ルノ款條ニ從ヒ又特ニ學務局ニ依テ  
 設立セラレルノ學校ニ在リ施行スル法教上  
 ノ趣旨ノ如キニ至テハ第十四章中ニ擧ルノ  
 制限ニ從ハサルヲ得ヘカラス  
 此預定ニ拠レハ唯其教授ヲ行フノ正鵠ニ向  
 テ要スル時日ト時限トノ間ニ方リ學務局茲  
 ニ學館ヲ管理シ得ヘキノ協議ヲ為スヲ許ス  
 其他又此協議ニ據レハ學校所屬ノ某物ヲ讓與  
 シ若クハ使用スルニ向テ之ヲ為スヘク又學務

局ニ讓與セルノ學館及ヒ所有物ノ息銀價ニ越  
 エナルモノニシテ當初該學校ニ係レルノ負債  
 如キ既ニ其校ヲ交付セルヨリ以上ハ乃チ學務  
 局ヲシテ之ヲ償還セシムルノ約ヲ設定スヘキ  
 モノトス  
 若シ夫レ此章中ニ擧ルノ協議ヲ濟成セルニ及  
 テヤ管理者輩ノ如キハ或ハ學館及ヒ所有物ニ  
 係レル定例ノ利子ヲ以テ管理者輩自ラ之ヲ取  
 リ或ハ管理者輩ノ受托者若クハ學務受托者ニ  
 給與スルモ斯ノ如キノ息銀ヲ以テ學務局ニ還



付スルヲ得又更ニ其協議ニ依テ要スル定列息  
 銀ヨリモ略以ナルノ息銀ト虽氏得テ之ヲ還付  
 スヘキナリ  
 此章ニ據レハ則チ管理者輩若クハ管理受托者  
 ニ屬セサルノ某物或ハ學校ニ依テ憑信セラレ  
 サルノ某物ヲ交付スルニ至テ嘗テ權ヲ附スル  
 所ヤラズ又何レノ處ヲ問ハズ學校ノ憑信スル  
 所ト爲リ乃チ其權利ヲ以テ某人ニ附シ而シテ  
 管理者輩ニ関スル所ナク一正鵠ヲル無ニ必ズ  
 學校ヲ用エルヲ得セシムル所ハ則チ其人之ヲ

諾スルニ非サルヨリハ嘗テ斯ノ如キノ權利ヲ  
 妨ルヲ得ヘキ所アラサルナリ  
 交付スル既ニ斯ノ如クセルノ學校ニ至テハ學  
 務局自ラ其協議ヲ成シ依テ之ヲ管理スルノ度  
 量及ヒ時日中ニ在リ之ヲ視ル宜ク猶學務局ニ  
 依テ設立セラレルノ學校ト認ルヲ得ヘシ



... 城山雜 ... 卷之 ... 一 ... 二 ... 三 ... 四 ... 五 ... 六 ... 七 ... 八 ... 九 ... 十 ... 十一 ... 十二 ... 十三 ... 十四 ... 十五 ... 十六 ... 十七 ... 十八 ... 十九 ... 二十 ... 二十一 ... 二十二 ... 二十三 ... 二十四 ... 二十五 ... 二十六 ... 二十七 ... 二十八 ... 二十九 ... 三十 ... 三十一 ... 三十二 ... 三十三 ... 三十四 ... 三十五 ... 三十六 ... 三十七 ... 三十八 ... 三十九 ... 四十 ... 四十一 ... 四十二 ... 四十三 ... 四十四 ... 四十五 ... 四十六 ... 四十七 ... 四十八 ... 四十九 ... 五十 ... 五十一 ... 五十二 ... 五十三 ... 五十四 ... 五十五 ... 五十六 ... 五十七 ... 五十八 ... 五十九 ... 六十 ... 六十一 ... 六十二 ... 六十三 ... 六十四 ... 六十五 ... 六十六 ... 六十七 ... 六十八 ... 六十九 ... 七十 ... 七十一 ... 七十二 ... 七十三 ... 七十四 ... 七十五 ... 七十六 ... 七十七 ... 七十八 ... 七十九 ... 八十 ... 八十一 ... 八十二 ... 八十三 ... 八十四 ... 八十五 ... 八十六 ... 八十七 ... 八十八 ... 八十九 ... 九十 ... 九十一 ... 九十二 ... 九十三 ... 九十四 ... 九十五 ... 九十六 ... 九十七 ... 九十八 ... 九十九 ... 一百 ...



終